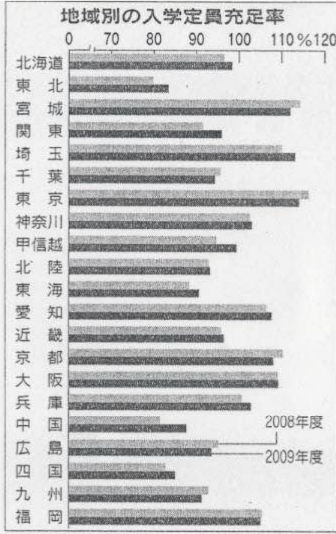




2009年7月31日(金) 日本経済新聞より

## 私大46%が定員割れ



2009年度、地方の私立大で定員に占める入学者の割合を示す「入学定員充足率」が回復傾向にあることが、30日に公表された日本私立学校振興・共済事業団の調査でわかった。一方、「定員割れ」となった私立大も5割近くに上り、同事業団は「不況から受験生の地元志向が強まっているが、国公立大との競争にさらされ厳しい状況が続いている」と分析している。

### 私大、地方で回復傾向

#### 今年度の入学者数

**定員割れは46%  
状況依然厳しく**

調査は全国私立大のほぼすべてに当たる570校を対象。全体の入学定員充足率は106%で、前年度とほぼ同じだった。

調査によると、広島を除いた中国地方の入学定員充足率は88%で前年度より6%上昇。甲信越も5%増え99%だった。関東は96%（5%増）、宮城を除く東北は83%（4%増）と地方大の充足率の増加が目立った。一方、東京都、宮城県、京都府は100%を超えたが、いずれも減少している。

私立大570校全体の志願者は前年度から0.3%増の307万1673人で、入学定員（44万9869人）に対する志願倍率は横ばいの6.8倍。合格者は103万9063人と2%減り、入学者は47万9083人だった。定員割れとなった

大学の割合は46.5%。過去最悪だった前年度から0.6%改善したが、定員の50%に満たない大学が前年度より2校多い31校に上るなど厳しい状況が続いている。学部別の調査では、医学部人気が続いており、倍率は21.5倍と最高。農学系9.2倍、理・工学系7.9倍、社会系7.4倍と続いた。歯学部は志願者数が前年度から35.2%減少し5723人、倍率は2.9%悪化した。

「USAGI通信はメールでの送信も可能です。メールでの送信をご希望の方は、弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。」